

科目名	メディアと国際関係特論 一日中韓関係の見方	担当教員	大嶋英一
科目属性	専門科目群E	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<p>【授業概要】</p> <p>グローバル化が進む中で国際的視野を身につけることの重要性が今ほど必要とされることはない。これは単に国際協力やビジネスだけではなく、教育、医療保健、あるいは福祉分野などに携わる者にとっても同様である。国際人材を育成することは教育界の急務であるし、新型コロナウイルスのパンデミックは医療保健分野においても国際協力の重要性を痛感させることになった。また、現在国内には300万人近い外国人が長期滞在しており、今後もその数は増えていく趨勢にある。このような状況の中で共生的な世界や社会をいかに築いていくかが問われている。</p> <p>島国に住む私たちは、メディアを通して世界の動きを知ることになるが、国際社会は国内とは大きく異なり正しく理解することはなかなかむずかしい。そこで本特論では、私たちが世界で起きていることを理解する上で重要な国家と個人の関係の基礎から始めて、現実に東アジアで起きていることを題材にしてそれらの歴史的背景、国際システム特有の動き、国際秩序への影響などを考察する。また、メディアを通じて国際情勢を理解する際の注意点についても触れる。これらのことによって国際間の出来事がより深く理解できることを示す。大学院らしい学生間の自由闊達な議論を重視する。</p>			
<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係を多面的に見ることができるようになる 2. 歴史に基づいて国際関係を見ることができるようになる 3. 巨視的見方と微視的見方、ダイナミックな見方とスタティックな見方等の違いを知る 4. 法的見地と政策的見地を区別できるようになる 5. 共生的な世界の実現には何が必要か考えられるようになる 6. 国際的事象に関し、表面的な動きに惑わされることなく深い洞察に基づいた自身の意見を持てるようになる 			
<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家と個人(民主主義と社会契約、人権と自然権、法の精神など) 2. 国際社会と国内社会 3. 国民国家とナショナリズム 4. 歴史問題(教科書問題、靖国神社参拝問題、慰安婦問題、歴史問題の本質など) 5. 戦後の国際秩序(日米関係、日本・中国・韓国の安全保障観、日中関係と日韓関係の基本的枠組) 6. 北朝鮮の核・ミサイル問題と被爆国日本(核不拡散体制と核禁止条約、瀬戸際外交、中朝関係など) 7. 領土・海洋問題(東シナ海、南シナ海など) 8. 中国の台頭と国際秩序(中国政治の仕組、中国の対外関係、米中関係とトウキディダスの罠など) 9. メディアと国際情勢—メディアの読み方 10. 東アジアの将来と共生の道(普遍的価値と共生、国際情勢と日本の政治、日中関係など) 			
<p>【評価方法】</p> <p>評価は、スクーリング評価(30%)、レポート評価(30%)、「科目修得試験」(40%)の割合で行う。スクーリングは3時間ずつ2回行う。</p>			
<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ジョセフ・ナイ他『国際紛争』(原書第10版)有斐閣 2017年 2. 田中均『日本外交の挑戦』角川新書 2015年 3. 加藤陽子『それでも日本人は「戦争」を選んだ』新潮文庫 2016年 4. ビル・ヘイトン『南シナ海』河出書房新社 2015年 			
<p>【参考図書・サイト】 (全般)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山影進『国際関係論講義』東京大学出版会 2012年 2. 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』[新版] 有斐閣 2010年 3. 『詳説世界史B』、『詳説日本史B』、山川出版社(その他の出版社の教科書でもよい) 4. 『政治経済』、『倫理社会』、東京書籍(その他の出版社の高校用教科書でもよい) 			

5. 外務省ホームページ：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
(近代国家と社会契約)
1. 手島純『16歳からの哲学』彩流社、2014年
 2. 山脇直司『ヨーロッパ社会思想史』東大出版会、1992年
 3. 重田園江『社会契約論』ちくま新書、2013年
- (国連)
1. 長有紀枝『入門 人間の安全保障 増補版』中公新書 2021年
 2. 国連広報センターホームページ：<http://www.unic.or.jp>
(歴史問題)
1. 橋本明子『日本の長い戦後』, みすず書房, 2017年
 2. 加藤陽子『戦争まで』第一章、朝日出版社、2016年
(領土・海洋問題)
1. 日本の領土をめぐる情勢：<http://www.mofa.go.jp/mofaj/territory/index.html>
 2. 芹田健太郎『日本の領土』中公文庫, 2010年
 3. 小松一郎『実践国際法(第2版)』信山社, 2015年
(北朝鮮と核問題)
1. 和田春樹『北朝鮮現代史』, 岩波新書, 2012年
 2. 『日本の軍縮・不拡散外交』, 外務省, 2016年; 以下よりダウンロード可
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000145531.pdf>
(中国)
1. 遊川和郎『中国を知る』第2版、日経文庫、2011年
ビジネスマン向けの入門書だが、現代の中国をきちんと分かりやすく説明。
 2. 白石隆他『中国は東アジアをどう変えるか』中公新書、2012年
 3. 『ナゾの国 おどろきの国 でも気になる国日本』、日本僑報社、2016年
“中国人から見た日本”の片鱗を感じられる本
 4. 21世紀中国総研編『中国情報ハンドブック』最新版、蒼蒼社; 以下よりダウンロード可
http://www.21ccs.jp/jhand/jhand_2021/jhand_2021.html